

| 第3回 小平市子ども・子育て審議会 会議要録 | |
|-------------------------|--|
| 日時 | 令和4年3月18日（金） 午後1時30分～4時5分 |
| 場所 | 小平市役所 6階 大会議室 |
| 出席者等 | 子ども・子育て審議会委員・・・15人（欠席1人） 傍聴人・・・5人 |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第3回小平市子ども・子育て審議会 会議次第 ・資料① 令和4年度児童館の事業計画（案）について ・資料② 令和4年度学童クラブ事業（案）について ・資料③ 令和4年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）について ・資料④-1 公立保育園の私立保育園への移行ガイドライン策定について（概要） ・資料④-2 小平市立仲町保育園の私立保育園への移行ガイドライン（案） ・資料④-3 小平市立花小金井保育園の私立保育園への移行ガイドライン（案） ・資料⑤ 私立幼稚園の認定こども園への移行について ・資料⑦ 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について ・令和4年度 小平市子ども・子育て審議会日程 |
| 議事 | <ul style="list-style-type: none"> （1）令和4年度児童館の事業計画（案）について （2）令和4年度学童クラブ事業（案）について （3）令和4年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）について （4）公立保育園の私立保育園への移行ガイドライン策定について （5）私立幼稚園の認定こども園への移行について （6）保育園の新設について （7）民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について （8）その他 |
| 上記内容についての意見・質疑応答 | |
| （1）令和4年度児童館の事業計画（案）について | |
| 委員 | 現在の指定管理者の指定管理期間が令和5年3月までということだが、今後の運用について、決められたスケジュールはあるのか。また民間事業者に管理を委ねてしまうと、人材育成や運営管理など、市のノウハウの蓄積に影響があると思われるが、どのような取組をしているのか。 |

| | |
|----------------------------------|--|
| 事務局 | 現在の事業者の指定管理期間が令和4年度で満了することに伴い、次期指定管理者の公募を行っていくことになる。例年だと7月に事業者の募集をし、12月に市議会に諮ることになる。 |
| 事務局 | 市のノウハウの蓄積であるが、指定管理者制度を導入する理由は、専門性のある民間の力を即戦力として活用することで、市民に質の高いサービスを提供する点にある。市としては、今後も民間事業者の専門性を活用していく方針である。 |
| (2) 令和4年度学童クラブ事業(案)について | |
| 委員 | 学童クラブは、例年申し込みが定員よりも多いと聞くと、定員までしか受け入れられていないのか。保育園サイドとしても、入会を希望している方が増えていると感じており、子ども・子育て支援事業計画の中でも箇所数は増えていくことになっている。学童クラブの今後の見通しはどうなっているのか。 |
| 事務局 | 受け入れについては、申請期限までに申請された方は、定員をオーバーしても全員を受け入れる体制をとっている。また、民設民営学童クラブに入会される方もいる。 施設の整備については、学校の中に学童クラブがあるという小平市の特性を活かして、まずは既存の施設である学校の教室などを活用していく。 |
| 委員 | 今の説明だと、期限内の申請者には、民設民営学童クラブを申請した方は含まれていないことになるのか。 |
| 事務局 | 期限内の申請者には、民設民営学童クラブを申請した方も含まれている。このため、民設民営学童クラブに入会が決まった後、公設学童クラブの入会を取り下げる方が出てくることになる。 |
| 委員 | 今後も保護者のニーズがとても高い事業だと思われるので、推進していただきたい。 |
| 会長 | 引き続き、待機児童は出さないという方針のもと、量の確保だけでなく質の向上にも努力していきたい。 |
| (3) 令和4年度子ども家庭支援センターの事業計画(案)について | |
| 委員 | 初めての子育てで悩んでいた時に、子ども家庭支援センターの方に相談に乗ってもらえたことに、大変感謝している。様々な場所で周知に努めていると思うが、もっとたくさんの人が利用できるように周知してほしい。 |
| 子ども家庭支援センター長 | 子ども家庭支援センターとしても、一人でも多くの方に必要な支援が届くよう、プログラム等も色々検討し努力している。何かいい案があったら、お伝えいただきたい。 |
| 会長 | 具体的な場所のアイデアなど、この場で何かお伝えいただけることはあるか。 |
| 委員 | 情報は、病院など様々な場所で得られるが、気になっている人の目にだけ留まる |

| | |
|---------------------------------|--|
| | のが現状かと思う。気にしていなくても、自然と情報が目に入る、耳に入る状況であれば、さらに救われる人が増えると思う。 |
| 子ども家庭支援センター長 | 貴重な意見と受け止め、これから検討していく。 |
| 会長 | 必要な取組なので、情報提供だけでなく、より情報の周知に努め、様々な工夫をしていただきたい。 |
| (4) 公立保育園の私立保育園への移行ガイドライン策定について | |
| 委員 | 保護者や関係者の方が安心できるよう、例えば長期継続を契約に盛り込むなどして、安定した運営ができる事業者が選定されればと思う。また、現在の該当園における令和6年度末以降の職員の処遇や勤務地等、何か方針はあるのか。 |
| 事務局 | 1点目の中長期的な視点をもった事業者の選定については、今回の件は公立保育園から民間保育園に移行し、民設民営となるため、長期継続契約という話ではない。2点目の公立保育園の閉園に伴う職員の処遇については、令和4年度以降令和6年度末まで正規の保育士が退職した際の正規保育士は不補充という形を取り、会計年度任用職員の専門職で補充していくことで、正規の保育士の数を調整していくことを想定している。 |
| 事務局 | 職員の件で補足になるが、基本的に保育士は市の職員であるため、仲町保育園と花小金井保育園が閉園になっても、いずれかの市立保育園に異動になる。状況を見極めながら、職員の定員管理をしていく。 |
| 会長 | ここでの話は、児童館や子ども家庭支援センターのような指定管理者制度への移行ではないので、その点を承知いただきたい。 |
| 委員 | 仲町保育園も花小金井保育園も隣接地に新園を建設するということだが、現在の園舎園庭である敷地は、その後どうなるのか。仲町保育園の敷地は大きくなるのか、また旧園庭は新園の園庭に使用できないか。また、今後、少子高齢化が進み、例えば、この移行した私立園が保育事業をやめ、売却してその土地に戸建ての住宅を建てるとなった際はどうか。 |
| 事務局 | 1点目の質問について、旧園舎園庭の現時点での活用方針は決まっていない。2点目の仲町保育園の園庭について、敷地面積を少しでも大きくするため、行政財産使用許可の対象の施設所有者と協議を進めているところであり、旧園庭の運用は今後の検討となる。3点目の市有地の売却は、市内保育施設事業者の意向も踏まえて総合的に判断し、売却をしていく前提で検討している。また、民間に移行した保育園が少子高齢化で突然縮小していくのかということ、10年以上は継続していくだろうと考えている。すぐに転売して宅地化されることは、市としては想定していない。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 今回の民間移行に伴う園舎建設に対しては、市の補助等を検討している。補助金を支給するにあたり、最低でも10年以上運営を行っていただくということになる。また、事業者からも10年20年という長いスパンで運営していかないと経営が安定しないという声も聞いていることから、すぐに売却されることは考えられない。 |
| 委員 | 花小金井保育園は、現在の園庭に新園を建設されるということだが、令和5年度建設中の間の子どもの園庭は、どのような形になるのか。 |
| 事務局 | 令和5年8月から翌年2月の工事期間中は、園庭は小さくなってしまうので、近くの公園へ散歩に行くことなど検討をしていきたいと考えている。また、新園の建設後並行運営期間は、花小金井保育園児も新園の園庭を使って遊べるよう、ガイドラインに記載している。 |
| 委員 | 民営化については、保護者の不安感が非常に強いものだ、民営化を受託した自らの経験から実感している。今回のガイドラインは、徐々に移行していくスケジュールとなっており、また、きちんとガイドラインに沿って進めていくということが改めて大事なことだと思った。 |
| 事務局 | たしかに保護者の方々からも、運営主体や職員が変わるといふところの不安感は聞いている。ガイドラインの一つの目的として、保護者の不安を解消することがあり、保護者とは慎重に意見交換を行ってきた。ガイドラインには「引き継ぎ」と「合同保育」等について記載し、しっかり実施していく。事業者が決定する令和4年11月頃からは、市・保護者・事業者の三者の協議の中でしっかり詰めていく。 |
| 事務局 | まず移行にあたっては、子どもの育ちに影響が出ないということを念頭に市は進めている。当然、事業者や保護者には様々な意見があることは承知しているが、移行する子どもの育ちに影響が出ないよう、段階的に令和6年度は2園で並行して運営していくことを考えてきた。その点を忘れずに、今後は市、保護者と事業者三者の話し合いの場を進めていく。 |
| 会長 | 自治体により手法は異なる中で、小平市は、移行園ごとにガイドラインを作成することで、保護者や子どもの様々な思いを受け止めながら丁寧に移行を進めている。今後もガイドラインを遵守し丁寧に進めていきたい。 |
| 委員 | 保護者の意見を充分考慮して、ということだが、例えば、事業者により、話してきた後に内容が変わってしまうようなことはないという認識でよいか。 |
| 事務局 | 保護者と意見交換をしていく中で、手法や運営主体など移行にあたるガイドラインの基本的事項を定めたが、その範囲においては保護者の意見を踏まえて作成することが出来たと考えている。また、設備に関しては、民設民営なので、民間が建設・設計などを行っていく。ただ、保護者の意見、設備関係に関しても意見交 |

| | |
|--------------------------|--|
| | 換会の要録を確認した上で応募するよう、募集要項に記載していく。 |
| 委員 | 話してきたことが変わることは、信頼性に影響を与えてしまう。例えば、園庭の広さが縮小された場合など、入園の希望と違ったと言われてしまう可能性もあるが、そのようなことはないという認識でよい。 |
| 事務局 | 現時点で保護者に具体的な園舎園庭の説明はしていない。あくまでガイドラインに書いてある内容で伝えているので、細かいところは今後三者協議を設けるので、そこで改めて要望を聞いていく。 |
| 委員 | 保護者は、保育のあり方や設備、環境がどうであるかが重要で、保育園を決めると思われる。入園手続きした後に変更した、ということはないという認識でよい。 |
| 事務局 | 市が約束できるのは、今ガイドラインに記載しているものである。意見交換会での保護者の要望は、本当に様々なものが出たが、その場で出たものはすべて事業者を確認してもらい、実現できるものは実現してほしいと事業者伝える旨は、保護者には伝えてある。 |
| 委員 | 条件が違った場合、市の方で事業者を指導するのか。民営化となれば、最後の責任は事業者ということか。 |
| 事務局 | 先ほどから説明している通り、保護者・事業者・市による話し合いの場を定期的に設けていく。市が想定しているような園でなくなった場合は、きちんと事業者に見直し、保護者が意見を言う場も設け、随時対応していく。一番影響がある令和3年度時点で0、1歳の子どもの保護者の方には、意見を十分に聞き対応していく。令和5年度の入園申し込み時には、保護者が選択できるような説明をし、入園の申し込みを受け付けていく。 |
| 委員 | 保育園や幼稚園に入るのは大変だと思われる保護者が多い。保護者が願った入園時の子どもたちの環境が保たれるようにしていただきたい。 |
| 会長 | 今後は、園ごとに作成されるガイドラインに基づき選定を厳密に行い、少なくとも移行期間までは市が適切に指導しながら、利用する子ども・保護者の様々な思いに背かないように事業を進めていただきたい。 |
| (5) 私立幼稚園の認定こども園への移行について | |
| 委員 | 従来型幼稚園の認定こども園化を進めていく話があったが、私学はそれぞれの運営の仕方があるため、私学の考えを尊重していただきたい。認定こども園にすべて移行するわけではない。また、様々な制度や認定方法があり、複雑で分かりにくいので、委員でも誤解されている方がいるかもしれない。今後、3～5歳の認定こども園も認めるという考えでよろしいか。 |
| 事務局 | 市としても、市内15園全ての移行は難しいと考えている。今回の2園については、法人の考えや地域の保育のニーズが高まっていることを踏まえてご提案いた |

| | |
|----------------|---|
| | だいたいの経緯がある。地域の状況や私学の建学の精神など、総合的に個別に相談に乗りながら進めていきたい。ただ、市では、待機児童数として特に0～2歳がここ数年多くなっているのので、待機児童対策と合わせてこういった進め方が出来るかということも含めて、個別に進めていく。 |
| 委員 | 幼稚園が考える、3～5歳の幼稚園型の認定こども園化も受け入れてもらえるのか。 |
| 事務局 | 基本的には各園・各法人の考えを尊重していくが、地域性として0～2歳の受け入れをお願いするケースも出てくるため、今後も事情に合わせて個別に対応していく。 |
| 会長 | 待機児童が一人でも減るよう、引き続き丁寧な対応をお願いする。 |
| (6) 保育園の新設について | |
| 委員 | こうした件についての再発防止策、あるいはこの事業者に対するペナルティはあるのか。また、市が積極的にこれから動いていくことはあるのか。 |
| 事務局 | 市としても、重く受け止めている。今回の件は、地権者との売買契約が進まなかった問題があり、一概に運営事業者だけの責任とは言えないと考えている。ただし、市民への説明として、市ホームページで公表していく。入園内定者には、運営事業者から丁寧な説明及び代替措置を講じてもらう。認可基準を満たしており、法令違反ではないことから、ペナルティは考えていない。 |
| 事務局 | 補足だが、保育園の認可は東京都の権限である。今回東京都の児童福祉審議会にて審議いただく中で、当初の園庭の面積を確保するよう、付帯意見が付けられた。市としても進捗状況を管理しながら、当初の予定に近づけるように運営事業者と話をしていくとともに、市民にも随時説明をしながら進めていく。 |
| 委員 | 土地を買収するということは、当然簡単にはいかないことだが、損害を受けるのは市民である。こういう事態が繰り返されるというのは良くない。真摯に取り組んでいただきたい。 |
| 事務局 | 市としては、公募採択の際に売買の約束の書面等の確認は行っている。事業者からは、土地の買い受けについてうまくいかなかったが、今後も取得できるよう努めていくと聞いている。すべてを確保できなくても、場合によっては賃借等、少しでも敷地を広げるような確保策について、引き続き指導していく。再発防止策としては、今後一層詳細に書面等の提出を求め確認していく。また、今回は法令違反ではなく基準も満たしているので、東京都としても認可せざるを得ないということである。東京都からは、こうした計画変更の事例は都内で全くないというわけではないが、小平市のように公表に至るのは初めてと聞いた。むしろ望ましいのではないかと、というような印象を受けた。ホームページにおける公表では、 |

| | |
|-----|---|
| | 事業者から説明を受けた一連の経緯を公表する。ペナルティではなく、市の説明責任を果たす意味で行うものだが、事業者にとっては厳しい対応ではないかと考えている。しかしながら、委員の言うように、一番影響を受けるのは利用する子どもであり保護者であるので、今回公表するに至った。 |
| 委員 | 法律的には問題がないということだが、結果的にこのようなことになる、行政をゆがめることになりかねない。結果としてこういうことになったということだけでよいのかと思ってしまう。当審議会でもこのような意見を持っている者がいることは認識いただきたい。 |
| 事務局 | 市民が厳しい目で見ていることも、充分承知している。まずは入園内定者に説明をし、想定していた保育活動ができるのかどうか、市は確認し指導していく。事業者も、4月には土地の確保は間に合わなかったが、引き続き獲得に向けて交渉を続けていく意向はあるので、市も確認をしながら強く要望していく。 |
| 委員 | 建築許可を出している部署というのは、同じ市役所内か。 |
| 事務局 | 建築確認は、民間機関が行っている。 |
| 委員 | 民間が許可をしているということは、市役所は民間事業者からの報告というのはわからないものか。 |
| 事務局 | 市としても、もっと早く確認する必要があると考えている。今後は、逐一報告を求めていく。 |
| 委員 | 今後その時点から市が関わっていく、対応方針を変えるなどの議論はしているのか。 |
| 事務局 | 設置認可の申請については、市は事業者からの申請書類を受理し、東京都に提出している。事業者の負担を考慮し、提出書類がまとまった段階で一度に提出していただいていたが、今後については、完了した書類は逐一提出していただき、未然に防いでいきたい。 |
| 委員 | 完了してからでは遅いのではないかと。逐一報告いただく体制を早急に整えれば、再発防止につながるのではないかと。その辺りの監督、業務をしっかりとやってほしい。 |
| 事務局 | 市では、令和4年4月の開園が遅れないよう、工事の進捗確認をしていた。11月にも工事の進捗の遅れがないかなど事業者を確認をしたが、事業者からは面積縮小の報告はなかった。今後は、工事の進捗だけでなく、市が採択した計画から少しでも変更がないかも合わせて、逐一確認をしていく必要があると考えている。 |
| 委員 | 現場確認が第一だと思うが、報告があがってくるのを待つだけではなく、現地に行き目視していたのか。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 工事の進捗は、我々職員が現地に行き目視している。今回、目視は毎月ではないが行っていた。園舎建築は予定通り進行しており、仮囲いのラインは、市が採択した時の敷地面積より小さかったが、仮囲いの外に重機が置いてあったため、今後広がり、予定通りの敷地面積になるだろうと考えていた。 |
| 委員 | 承知した。今後も再発防止に努めるようお願いしたい。 |
| 委員 | 今回の運営事業者は、市内でいくつ保育園を運営しているのか。 |
| 事務局 | 本園が2園目となる。 |
| 委員 | 連絡がなかったというのは、この法人の信頼性に関わるのではないかと。市が初めて関わる事業者ではない。市民として不安である。 |
| 事務局 | 保育園は建てて終わりではなくて、始まりであるため、信頼関係の構築は非常に重要であると考えている。地権者に関する詳細の説明は控えるが、事業者は不動産売却承諾書を交わしていたことから、建築確認申請までに土地の売買契約は進まなかったが、売買契約の交渉は継続し、外構工事までには購入できると考えていたと聞いている。4月の開園段階では縮小した園庭となるが、事業者には引き続き、一日でも早く園庭を広げるように、市として指導していく。 |
| 委員 | 建物や土地のこととても大事だが、他の委員が話されたように、子どもたちの教育や環境が保たれるよう願っている。今後このようなことが起こらないようお願いする。 |
| 委員 | 話が戻るが、私立園移行についてはガイドラインを策定し、それに沿った形で民間事業者に園舎園庭を作ってもらって運営してもらおうと話をしていたが、今回この事象は、約束したことを守らないで勝手に進めたことだと考える。策定したガイドラインが遵守されているのか、市側が管理監督してそれを担保していけるのかが不安である。何らかの対策はあるか。 |
| 事務局 | 今回の新園の建設については、新園ごとにガイドラインは作成していない。私立保育園への移行に際しては、ガイドラインを作成している。新園は、公募選定で事業者を採択し、設置認可の申請をしていく。今回の件は、民間移行と切り離れた話になる。 |
| 委員 | 本質としては、私立への移行と今回の件は、約束を守るところは同じだと考える。結局、民間事業者をきちんと管理監督ができていないと、事象自体は変わらないと感じる。 |
| 事務局 | 民間事業者に履行を促すところは同じと言えるかもしれない。今後に向けて市として逐一確認を進めていく。現場にも当然確認をしに行く。民間移行についても、 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| | 今回の反省を活かせるところは活かしたい。 |
| 委員 | 前提として、用地を含めた提案に沿って複数の事業者の中から選考されたということなので、後からそれを変更するというのは、今回はやむを得ずということだが、一方では作為的に行うこともできるのではないか。ペナルティは考えていないとのことだが、改めて総合的に検討してほしい。 |
| 事務局 | 市は、事業者が不動産売却承諾書を受領していたことなども判断材料に、事業採択したが、地権者との売買契約が進まなかったところがある。今後も、引き続き地権者と交渉を進め、一日も早く園庭を広くしていくと事業者からは話を伺っており、作為的との判断は難しい。ペナルティについては、例えば、公立保育園の私立保育園への移行の際等の公募に参入できないようにするなどが考えられるが、今回の件は法令違反ではないことから、それが可能か契約担当部署と相談していく。 |
| 委員 | 今回の事例が作為的だとは思っていないが、今後同じような事例が出た場合、作為的に進めることもできてしまうので、充分注意してほしい。 |
| 会長 | 当初の計画からすれば、欠損している状況のまま了承するのは当審議会での合意は難しいと考える。ただし、事業者も状況をしっかり認識し、地権者と交渉しながら当初の申請通りの土地の確保を目指すということを述べており、引き続き、市は進捗状況を把握していつてもらいたい。さらに、現状では、市ホームページに一連の経過を公表することなので、市民の目はもちろん入ることになるが、利用する親子のために良いものを確保できるようにしてほしい。今後は、事業で手を挙げる法人なり会社が、作為的にすることはないだろうという固定観念を持たず、事業者によっては必ずしもそうでない場合もあるのかもしれないことも想定しながら、いろいろな状況で予定通り進まないこともあるかもしれないが、市は管理監督していつてほしい。さらに、公募の審査の段階でこれまでの事業の実態把握を行うこと。中には事業を手広くやっていればやっているほど、様々な提案に長けていることもある。そういうところで意外に見落としもあるかもしれない。市も目を肥やししながら、しっかりと事業者選定を行う必要がある。当面、この事業者に対する適切な対応と、今後二度とこういうことが繰り返されないよう、再発防止の両面を、しっかりと進めていただきたい。 |
| (7) 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について | |
| 委員 | 民設民営学童クラブは費用が高いとか、一方でサービスが充実しているなど、様々な意見があると思うが、誤解のないよう、補助対象の範囲と保護者の自己負担部分を周知する必要があると考える。 |
| 事務局 | 資料7の図をご覧ください。なお、市が補助対象としている部分については、保護者負担は月額1万円以下とすることとしている。市が補助対象としていない |

| | |
|---------|--|
| | 部分は、いわゆる習い事と同様に、かかる費用は全額保護者の自己負担となる。今後は周知に努めていく。 |
| 会長 | 資料7の図は、いま指摘された点がわかりやすく示されている。この図は利用しているのか。 |
| 事務局 | この図は利用していなかったもので、今後こちらの図も活用していく。 |
| (8) その他 | |
| 委員 | 児童発達支援センターの対象者は何歳までか。また関係機関と連携することだが、個人も継続的に支援していただけるのか。 |
| 事務局 | 対象者は児童である0歳から18歳までと考えている。専門性を発揮して年齢に応じた切れ目のない支援を行っていく。 |
| 委員 | ぜひ継続的な支援をお願いしたい。 |
| 会長 | 保護者も子どもも待ち望んでいた施設だと思われるので、期待感を込めてこの取組を見守っていく。 |